

B組（3，4年生） 生活単元学習「発表会をしよう」 平成 30 年 11 月

単元について

下級生の 1，2 年生を招待して，歌や合奏，ペープサート劇の発表会を行う単元である。「司会やはじめのことば，おわりのことば」等の自分の役割を果たし，自分たちで会を進行したり，発表の内容や役割を，自分たちで話しながら決めたりする活動を設定することで，主体的に活動に取り組むことをねらう。また，お客さんが来るといいうつもと異なる状況を受け入れて活動し（自分の力を発揮し），経験の幅を広げていくこともねらっている。下級生を楽しませてあげようという気持ちで練習に取り組むことで，生活科における役割の内容や，音楽の歌唱や身体表現，器楽などの内容において，教科における一人一人の目指す資質・能力を，効果的に培うことができると考えた。

単元の目標

【生活科】

- ・自分の役割に取り組む。
- ・自分の役割を理解し，進んで取り組む。
- ・観客の前で，自分の役割に取り組む。
- ・観客を意識して，自分の役割に意欲的に取り組む。

【音楽科】

- ・好きな歌を楽しんで聴いたり，旋律の一部を歌ったりする。
- ・易しい旋律の一部分を，自分なりに楽しんで歌う。
- ・曲のリズムに合わせて，自分なりに楽しんで身体を動かす
- ・自分が選んだ楽器を演奏する。

単元計画

次	時／日	学習活動	指導内容（学習指導要領から）
1 次	11/12	プログラムの内容を決める。 プログラム・文字飾りを作る。	国小 1・2 段階〔思〕B 書くこと-ア 伝えたいことを思い浮かべたり選んだりする。 国小 1・2 段階〔思〕B 書くこと-イ 手本を見ながら平仮名や片仮名を書く。 図小 1 A ア(イ)色画用紙にシールを貼る。
	11/13	練習する。	生小 1 段階カ-(ア)(イ) 2 段階カ-(ア)(イ)

	11/14		自分の役割に関心をもって取り組む。
	11/15	リハーサルをする。	音小1段階 A エ(ア)音を聞いて自分なりに表す。
	11/16 本時	A組の児童を招待して発表会をする。	音小2段階 A エ(ア)曲のリズムに合わせて表す。 音小2段階 A イ(イ)㊦ 音のリズムに合わせて打楽器を演奏する。 音小3段階 A イ(イ)㊧ 簡単な旋律を演奏する。 国小1段階 [知] ア(イ) 言葉や事物のイメージに触れる。

単元の個人目標及び本時の目標（抜粋）

児童	単元の個人目標	本時の個人目標	3つの柱
A 児	①自分の役割を理解し、進んで取り組む。 (生活科-小-2)	①自分の役割を理解し、おれいのことばを言う。	ウ
	②自分が選んだ楽器を演奏する。 (音楽科-小-2)	②曲のリズムに合わせて、木琴の二音を演奏する。	ア
B 児	①自分の役割に取り組む。 (生活科-小-2)	①前に出て、はじめのあいさつをする。	イ
	②好きな歌を楽しんで聴いたり、旋律の一部を歌ったりする。(音楽科-小-2)	②好きな歌を楽しんで聴いたり、旋律の一部を歌ったりする。	ア
	③いつもと違う状況の中で、落ち着いて参加する。(自立活動)	③いつもと違う状況の中で、落ち着いて参加する。	

育成を目指す資質・能力の3つの柱

ア 何を理解しているのか、何ができるか（「知識・技能」の習得）

イ 理解していること・できることをどう使うか（「思考力・判断力・表現力」の育成）

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

学習の様子



事前に招待状を A 組さんに渡しました。発表会当日は、B 組で向かい合わせてスタンバイ。





司会進行やはじめのことばの役割を一人ひとりががんばりました。A組さんが楽しめるように、手遊びや、楽器演奏、ペープサート劇などを行いました。



本時の展開

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2・L3
10:50	1 はじめのあいさつをする。	・日直の児童に前に出るように促し、一緒に挨拶をする。	・日直の児童を見て、姿勢を正すように言葉かけをし、一緒に挨拶をする。
	2 今日の学習の確認をする。	・電子黒板で、文字やイラストを用いて流れを提示する。	・L1の話に注目できるように、指差しをしたり言葉かけをしたりする。
10:55	3 準備をする。	・電子黒板で机と椅子の配置を伝え、準備をするように伝える。	・一緒に机と椅子を移動する。
11:00	*A組の児童入場。 4 発表会をする。 (司会○児) ①はじめのことばを言う。(○児) ②かんげいのことばを言う。(○児) ③うた 1曲 ・クラリネットをこわしちゃった ④てあそび 1曲 ・幸せなら手をたたこう ④ペープサート 「はらぺこあおむし」 ⑤楽器演奏 ・かえるのうた ⑥おれいのことばを言う。(○児) ⑦おわりのことばを言う。(○児)	・司会担当の児童に司会進行をするように伝える。 ・児童の側に立ち、一緒にはじめのことばを言う。 ・言葉に詰まったときには、原稿を見るように促す。 ・曲を流す。 ・楽しい雰囲気をつくる。	・前に出るように促す。難しい場合は、その場で一緒に言う。 ・一緒に歌ったり、身体を揺らしたり、楽しい雰囲気をつくる。
11:20	*A組の児童退場。 5 あとかたづけをする。		
11:25	6 ふりかえりを行う。		
11:35	7 おわりのあいさつをする。		

本時の目標の評価（抜粋）

	目標	評価基準	評価	・次回に向けて ○特記事項
A 児	①自分の役割を理解し、おれいのことばを言う。（生活科）	◎お客さんの方を見て、一人で言う。 ○教師に促されて、お客さんの方を見て、言う。 △決められたことばを言う。	◎	・学部行事等でも役割を設定する。
	②曲のリズムに合わせ、木琴の二音を演奏する。（音楽科）	◎友だちの音を聴きながら、演奏する。 ○指揮や合図に合わせて演奏する。 △提示された旋律を演奏する。	◎	○この単元中に、旋律を聴いて、合わせて演奏することができるようになった。
B 児	①好きな歌を楽しんで聴いたり、旋律の一部を歌ったりする。（音楽科）	◎流れてくる歌をじっと聴いたり自分から歌ったりする。 ○教師の促しで電子黒板に注目し、歌を聴いたり旋律の一部を歌ったりする。 △教師と一緒に歌を聴く。	△	○いつもと違う状況で参加すること自体が、大きなことであり、音楽の目標を立てること自体が難しかった。
	②前に出て、はじめのあいさつをする。（生活科）	◎自分から前に出てあいさつをする。 ○教師の促しで前に出て、あいさつをする。 △教師と一緒にその場で、あいさつをする。	◎	・次の単元でも発表の機会を設ける。
	③いつもと違う状況の中で、落ち着いて参加する。（自立活動）	◎お客さんの前で落ち着いて最後まで活動する。 ○お客さんの前で落ち着いて部分的に活動する。 △発表会に参加する。	○	・様々な活動形態を設定する。

単元を終えて

学部での検討（今後につなげるか）

- ・様々な発表の機会を設け、定期的に設定していき、学習発表会へつなげていきたい。
- ・児童での話し合いをして決める活動を今後も設定する。
- ・児童が役割を果たすような学習場面を今後も設定する。
- ・友達と一緒に音を合わせて演奏する、歌う等の学習を続けていきたい。

- ・クラスだけでなくいろいろな集団での学習の経験を積ませたい。

全校授業検討会で出された意見等

- ・ペーパーサートを自分たちで作ったり、手の動かし方を工夫したりするなど、見ている相手を意識するための支援がさらにあればよい。
- ・中学部や高等部でも発表の機会を設けている。主体的に取り組めるように工夫をしていきたい。そのような学習に段階的に取り組めるとよい。一人一人が活躍できる場を作ることは大切だと思った。
- ・普段の学習グループ以外の交流の場を設定することは大切だと考える。中学部と高等部で授業交流・作業学習（農作業）を行った。
- ・自立活動については、授業全体の目標として上げていないにもかかわらず、個人の目標に入れることは妥当なのか、指導案の様式も含めて検討する必要がある。
- ・単元計画に指導内容として、国語や図画工作も入っているならば、単元の目標として上げるべきではないか。

授業検討会を受けて授業改善した点

- ・相手をより意識するように、交流で手紙を書く時やプレゼントを渡す時に、相手を明確にし、分かりやすく伝えてから、手紙を書く活動を取り入れたり、プレゼントを渡したりした。
- ・一人一人が活躍できるように役割を大事にした。例えば、クラス音楽会を開いて、はじめの言葉等、クラスの児童一人一人が会順に沿って役割をもつようにした。

単元について

年間指導計画の検討

前年度中に、季節や学校行事に関連した単元や実施して有効だったと考える単元・それを発展させた単元等を配列して年間指導計画を作成した。新年度になり新1年生の実態把握できた5月末に年間指導計画の見直しを行った。その中で図画工作科と生活科を合わせた生活単元学習「つくってあそぼう」の単元を1週間前倒しし、5時間から10時間と時間を増やして設定しなおした。

研究授業における単元の内容設定までの検討

2年生は昨年度から、「つくってあそぼう」の生活単元学習に取り組んでおり、その中で図画工作科の「形や色などに気付き、材料や用具を使おうとする。」「作品をつくりだすことの楽しさに気付く。」のねらいと、生活科の「身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとする。」「身の回りの遊びや遊び方について関心をもつ。」のねらいを中心として学習を展開してきた。

今単元ではさらに、図画工作科の自分のイメージを具現化して表現する力や、「生活科の遊び」の友達と関わる力を育んでいきたいと考えた。1年生の図画工作科の授業の様子や自由遊びでの姿からも上記のねらいを達成できると考えた。図画工作科のねらいを達成するために新聞紙を使って作ったり遊んだりする活動に取り組むこととした。また、友達とかかわりながら遊ぶことについては、本単元では遊びの中で簡単なきまりやルールに沿って友達とかかわる力を育むことをねらうこととし、簡単なルールのある遊びとして、これまで体育の授業や運動会で経験を積んできた玉入れを取り入れた。

単元の目標

【図画工作科】

新聞紙の感触を味わいながら握ったり振ったりやぶったりとさまざまな操作で関わったり、自分のイメージしたものを制作したりして、主体的に活動に取り組む。

【生活科】

教師や友達と一緒に遊ぶ中で教師や友達と一緒に遊ぶよさに気付いたり、一緒に楽しく遊ぶために必要なルールを身につけたりする。

単元計画

次	日時	学習活動	指導内容(学習指導要領から)
一 次	6月 10日, 11 日, 12日	・新聞紙の感触を味 わおう(新聞プール) ・風で飛ばしてみ よう	図画工作科 ・形や色などに気付き, 材料や用具を使おうとすること。 生活科 ・身の周りの遊びに気付き, 教師や友達と同じ場で遊ぼうとすること。
二 次	6月 13日, 14日, 17日	・新聞玉を作ろう ・玉を袋に入れよう ・好きな物を作ろう	図画工作科 ・形や色などに気付き, 材料や用具を使おうとすること。 ・材料などから表したいことを思い付くこと。 生活科 ・身の周りの遊びに気づき, 教師や友達と同じ場で遊ぼうとすること。
三 次	6月 18日, 19 日, 20日	・好きなコーナーで 活動しよう ・みんなで玉入 れ	図画工作科 ・形や色などに気付き, 材料や用具を使おうとすること。 ・材料などから表したいことを思い付くこと。 生活科 ・身の周りの遊びに気づき, 教師や友達と同じ場で遊ぼうとすること。 ・身近な遊びの中で, 教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり, 遊びを工夫しようとしていたりすること。
四 次	6月 21日	・振り返りをしよ う ・思い出シートを 作ろう	国語 ・体験したことなどについて, 伝えたいことを考えること。 図画工作科 ・材料や, 感じたこと, 想像したこと, 見たことから表したいことを思い 付くこと。

単元の個人目標及び本時の目標 (抜粋)

単元の個人目標 (各教科・領域等)

児童(生徒)	個人目標
C児	①新聞紙から作りたいものをイメージし, いろいろな道具を使って作る。(図画工作科(表現)・小学部2段階)
	②ルールを守って玉入れに参加し, 勝敗が分かる。(生活科(遊び)・小学部2段階)
D児	①新聞紙の感触を味わい, 自分から触って遊ぶ。(図画工作科(表現)・小学部1段階)
	②教師の言葉かけを聞いて, かごを見て玉を投げるができる。(生活科(遊び)小学部1段階)
	③新聞紙を破ったり, 振ったり, ねじったりしてさまざまな操作をして遊ぶ。(自立活動 身⑤環④)

本時の個人目標（各教科・領域等）

児童	個人目標	3つの柱
C児	①教師の言葉かけを聞いたり友達の様子を見たりして、自分の作りたいものを思い浮かべて制作することができる。（図画工作科(表現)・小学部2段階）	イ
	②玉入れのゲームでどちらが勝ったかの教師の問いかけに答えることができる。（生活科(遊び)・小学部2段階）	イ
D児	①自分から新聞紙を手にとり、形を変えた物を見る。（図画工作科(表現)・小学部1段階）	ウ
	②教師の言葉かけをきいて、かごに向けて玉を投げることができる。（生活科(遊び)小学部1段階）	ア
	③教師と一緒に新聞紙を破ったり、ひねったり、振ったりすることができる。（自立活動身⑤環④）	

育成を目指す資質・能力の3つの柱

ア 何を理解しているのか、何ができるか（「知識・技能」の習得）

イ 理解していること・できることをどう使うか（「思考力・判断力・表現力」の育成）

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

学習の様子



新聞紙プールにみんなで入って、体をいっぱい動かしたり、新聞紙で洋服やライオンのたてがみを作って身につけたりして遊びました。



広い部屋で、好きなコーナーで活動しました。後半は、みんなで玉入れをしました。線から出ないように気をつけながら、かごを目指して「えいっ。」



本時の展開

時間	学習活動	指導・支援	
		L1	L2
10:50	1 はじめの挨拶をする。	・日直の児童に挨拶の号令をするように促す。	・児童と一緒に「お願いします。」の挨拶をする。
10:55	2 今日の学習について知る。	・今日の学習について、電子黒板を使って伝える。	・電子黒板やL1を見るように促す。
10:55	3 活動の場所(希望の棟)に移動する。	・気持ちを高めるために、掛け声を促してから、移動することを伝える。	・一緒に掛け声を言ってから、安全に移動できるように支援する。
11:00	4 好きなコーナーで遊ぶ。 ○制作コーナー ・建物や洋服等, 好きな物やイメージした物をのりやテープ等の道具を使って制作する。 ○風コーナー ・サーキュレーターに新聞紙を当てて遊ぶ。 ・紙飛行機を飛ばすなど, 制作コーナーと関連付けて遊ぶ。 ○新聞紙たらいコーナー ・新聞紙の感触を味わいながら, 破いたり, 握ったりする。	・好きなコーナーで遊ぶことを伝える。 ・4の活動では制作コーナーを中心に支援する。 ・なかなかイメージのわからない児童には, 見本や友達の作品を見せたり, 一緒に制作をしたりする。 ・紙飛行機等, 風に飛びやすい作品を作った児童を風コーナーに誘導する。	・担当する児童の目標を達成できるように, 遊びを支援する。 (風コーナー) ・新聞紙が飛びやすいように, 細かくちぎったり丸めたりするように促す。 (新聞紙たらいコーナー) ・新聞紙を丸めたり破ったりするなど, いろいろな遊びができるように, 見本を見せたり促したりする。
11:15	5 コーナーの片づけをする。 6 玉入れの説明を聞く。 7 玉入れをする。 (青チーム) (赤チーム) ①B児 ①A児 ②C児 ②D児 ③E児 ③F児	・絵カードや順番カードなどを使って, 玉入れの説明をする。 ・スタートの合図や進行を行う。 ・みんなで玉を数えるように促す。 ・児童に勝敗を尋ねる。 ・勝ったチームを紹介し, 両チームの頑張りを褒める。	・L1 の話を聞くように促す ・児童と一緒にチームのメンバーや順番, ゲームの仕方の確認をする。 ・玉の準備をする。 ・実態に応じて玉を投げる場所を知らせたり, 一緒に手を動かしたりして支援する。 ・児童と一緒に数唱する。 ・児童と一緒にばんざいをしたり, 拍手をしたりする。
11:30	8 教室に移動する。 9 おわりの挨拶をする。	・今日の学習で頑張ったことを褒める。 ・日直におわりの挨拶の号令をかけるように促す。	・一緒に「ありがとうございました。」の挨拶をする。

目標の評価（抜粋）

本時の個人目標の評価

児童	個人目標	評価	次回に向けて
C 児	①教師の言葉かけを聞いたり友達の様子を見たりして、自分の作りたいものを思い浮かべて制作することができる。	○	
	②玉入れのゲームでどちらが勝ったかの教師の問いかけに答えることができる。	⊖ △	勝敗を理解することができた。3回目では間違っていた。まだ数の多い少ないや、勝敗は理解していないことが分かった。
D 児	①自分から新聞紙を手にとり、形を変えた物を見る。	○	
	②教師の言葉かけをきいて、かごに向けて玉を投げることができる。	○	距離を長くしてもできるか確認する。
	③教師と一緒に新聞紙を破ったり、ひねったり、振ったりすることができる。（自立活動 身⑤環④）	○	破る、ひねる、丸める、棒を折るなどの活動に取り組んだ。次回は振ったり叩いたりして、音を鳴らすことに興味をもたせたい。

単元の個人目標の評価

児童	個人目標	評価	今後に向けて
C 児	①新聞紙から作りたいものをイメージし、いろいろな道具を使って作る。	○	図工科「へいめんをつくろう」「りったいをつくろう」につなげる
	②ルールを守って玉入れに参加し、勝敗が分かる。	△	算数科の学習で多少の理解を身に付けた。今後も同様なルールのある遊びに取り組みたい。
D 児	①新聞紙の感触を味わい、自分から触って遊ぶ。	○	新聞紙以外の素材にも広げていく。
	② 教師の言葉かけを聞いて、かごを見て玉を投げることができる。	○	自分への指示を受け止める力をさらに高めたい。（ベースに自立活動？）
	③新聞紙を破ったり、振ったり、ねじったりしてさまざまな操作をして遊ぶ。（自立活動）	○	遊び・余暇をひろげる意味でも、いろいろな遊具で遊ぶ経験を（日生、生単の中で）

単元を終えて

本単元では、図画工作科の単元の個人目標は概ね達成されたと考える。そこで、年間指導計画の中で設定している生活単元学習の10月の単元「へいめんをつくろう（仮題）」や1月の「つかうものをつくろう（仮題）」の単元につなげたいと考える。今単元では、作りたい物をイメージしたり、イメージする物を作ろうしたりする学習の導入として位置づけ、それを達成することができた。今後はそのイメージを広げたり、イメージしたものを表現するための知識や技能を高めたりしたいと考える。「へいめんをつくろう」や「つかうものをつくろう」は1時間×連続5日の単元となるので、「イメージを広げる」「イメージを自分なりに表現する」学習にじっくり取り組むことができると考える。素材に親しむことや作る活動そのものを楽しむことが目標となる児童にとっても、充実した学びとなるように単元内容を工夫していきたい。また、毎週1時間設定されている図画工作科の時間においては、教師が設定する題材に取り組む過程において、様々な素材を味わったり、いろいろな手法で表現する知識や技能を高めていったりすることに取り組んでいきたいと考える。

生活科の遊びに関する単元の個人目標は達成された児童もあれば、達成できなかった児童もいる。また、今単元の3回の授業の中で、自信を持って主体的に取り組むまでにいたった児童は少ないと捉える。まず、ルールを理解するための認知力を高める学習に取り組む必要があり、「順番」「数量」「多い・少ない」などの算数科の指導の充実を図って行きたいと考えた。また、自由遊びの中でも「友達と一緒に遊ぶ」「きまり」や「順番」「勝ち負け」など今単元につながる要素があるので、教師が日々それを意識しながら児童とかかわる事が大切だと考える。さらに、遊びを取り入れた生活単元学習を設定し、ルールのあるゲームに取り組むようにしたい。単元の期間や回数も含め、児童の目標が達成できるように、今回の反省を活かして学習内容を工夫していきたいと考える。

単元は概ね児童に有効な単元であったと考えるので、来年度の年間指導計画にも位置付けて実施したい。しかし、小学部低学年であるということから素材を味わったり、作ること自体を楽しんだりする学習を年度の前半は充実させた方がよいということから、年度の後半に設定したい。また、来年度の2年生の成長の様子や新1年生の実態を踏まえ、学習内容に工夫が必要である。